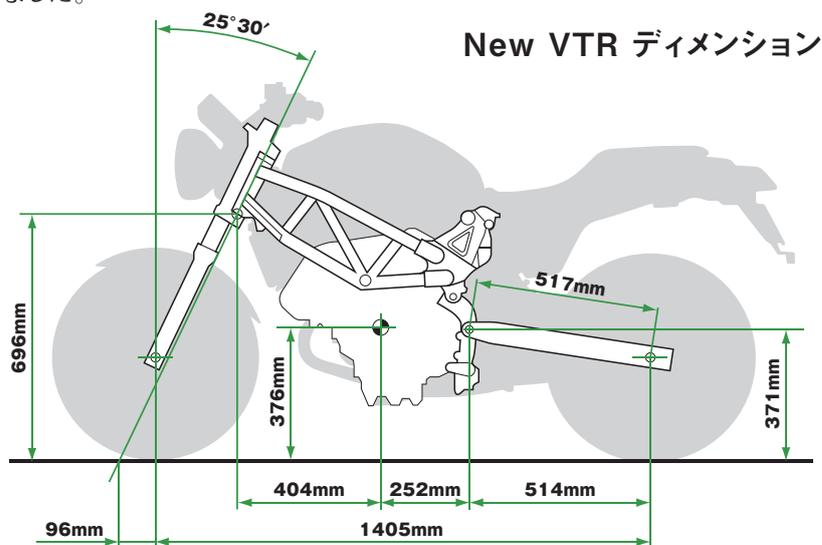


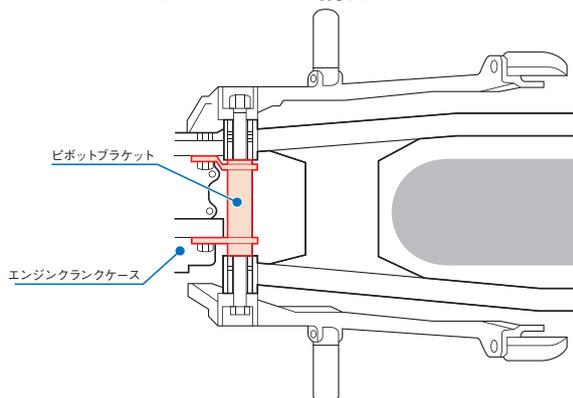
VTRの象徴とも言える特徴的なフレームは、軽量・コンパクト化に貢献するトラス構造のダイヤモンドフレームを継承。スイングアームは、フレームではなく別体式ピボットブラケットを介しエンジン後端部に結合させるピボットレス構造を採用。これによりエンジンにフレームの一部としての役割を持たせ、走行時に後輪からフレームに伝わる振動をエンジンで減衰させ、しなやかな乗車感を実現しています。

シートレールは、シート形状の変更や荷掛けフックの増設などにより、新たに設計。従来からの別体ボルトオンタイプをベースに、ガセットの追加やクロスパイプの変更を行いました。この変更に伴い、フレームボディのリアクッションアッパーブラケットに、軽量化と剛性を確保するハイテンションスチール（高張力鋼板）を採用。またフェルエルタンクリアブラケットは板厚を従来からの2倍にし、剛性を高めるとともに各部の溶接長も見直すなど、フレームとシートレールの剛性バランスを徹底的に見直しました。これらの変更により、必要な剛性を確保しながらも適度なしなやかさを持たせることで、狙いのバンク角を外すことのないよう、車体が傾いていく際のロール速度が常に一定となるようにチューニングを施し、エントリーユーザーでも安心感のある、くせない自然なコーナリングを実現しました。

細部にわたるこれらの変更により走行時における安心感を生み、コーナリング性能をはじめ、スムーズで上質な走りを獲得しました。



**ピボットレス構造**



**フレーム シートレールCAE解析図**

